



鳥取市教育センターだより

第2号 平成30年7月4日発行

〒680-0053
鳥取市寺町150番地
TEL 0857-36-6060
FAX 0857-26-3878
E-mail
kyo-center@city.tottori.lg.jp

「コラボ」による効果を期待して！

所長 東田 重高



もうすぐ七夕です。市教育センター主催の各種研修やひらがな音読支援等の事業について、各学校で教育活動に役立てていただいていることと思います。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。これから最も暑い時期となりますので、皆様が健康管理に気をつけていただきますことを願っています。

さて、中核市となって早や3ヶ月が経過しました。新設された「こども発達支援センター」では、福祉と教育が一体となって協働での相談業務を順調に行っています。また、多くの教職員研修の中で、中堅教諭等資質向上研修では、教務主任、特別支援教育主任とのコラボ研修を実施しました。

辞書によると「コラボ（レーション）」とは、複数の立場や人によって行われる協力・協働・連携・共同作業のことです。異なる分野の専門的な知識や能力を持つ人々が、お互いを補うということのみならず異なる視点で交わることで、新たな視点・考え方を創出する仕事の仕方とも言えます。また、その協力によって得られた成果（＝共同開発品・協力体制）も「コラボ」と呼ばれ、「新たな価値（付加価値）の創出」というニュアンスが込められる傾向があります。

市教育センターで行っている上記の相談業務・コラボ研修は、どちらも「コラボ」による効果を期待するものであり、学校における特別支援教育の推進や研修が学校運営に活かされることをめざしています。特に、各学校においては、世代間で学びあい、研修で学んだことをつなぐことで、連携協働意識を高めOJTを推進していくことを強く願っています。

学校・家庭・地域の連携・協働体制を確立し推進しているコミュニティ・スクール、兼務教員等を活用した小中連携、異学年の児童生徒による縦割り活動等も、ある意味「コラボ」の事例ともいえます。今後も、各学校で児童生徒の笑顔・健やかな成長につながる「コラボ」を教育活動に積極的に取り組んでいただくことを期待しています。



研修講師の活用について

校長会にてお知らせした研修講師の活用について情報提供したところ、毎回各学校のニーズに応じた形でご活用いただき、好評を得ています。研修講座の内容を学校で実践するときの具体的な方向性や方策について、子どもの姿や授業場面をもとに指導を得ることができます。

【小学校外国語活動中核教員研修】

- ◆文部科学省
直山木綿子調査官
- ◆散岐小学校
5年授業参観、指導助言
「外国語活動の授業づくり
ポイントと実際について」

【学力向上研修①】

- ◆関西大学
黒上晴夫教授
- ◆南中学校
2・3学年授業参観、校内
研究についての指導助言
「思考力育成のための校内
研究推進と授業改善につ
いて」

【特別支援教育ワークショップ①】

- ◆島根県立大学
山田洋平准教授
- ◆久松小学校
全学年授業参観、指導助言
「通常学級における特別支援教育に
ついて」
- ◆稲葉山小学校 授業参観、指導助言
「協同学習と授業改善について」

【活用された学校の声】

- 外国語活動の実際の授業実践を見ていただいて、具体的な改善点を指導していただいたことは、学校として大きな学びとなった。
- 今年度から全校で取り組もうとしていた思考力育成の校内研究について指導を得られ、具体的な研究の方向性がはっきりわかった。

今後も、講師の予定が確定次第、みなさまに情報提供していきます。ご活用ください！



きなんせ！ English World キャラバン

今年度も「きなんせ！ English World キャラバン」が始まりました。多くの学校で英語によるコミュニケーションに親しみ、ALTとの交流を楽しむ姿が実現されています。小学校外国語活動の先行実施に伴い、年間指導計画の中で効果的に単元に位置付け、意図的・計画的に実施することが大切です。そうすることで、英語に慣れ親しみ、英語でコミュニケーションする意欲も高まります。また、小中連携、小小連携の場としても有効です。



英語を使ったゲームでスマイル、アイコンタクト、クリアボイスで交流



英語で会話を楽しむカンバセーションタイム

特別支援教育係

鳥取市 共生社会ホストタウンの登録決定

鳥取県は、「あいサポート運動」発祥の地であり、誰もが暮らしやすい地域社会を作っていくことを目指してきました。

鳥取市では、平成29年11月にジャマイカと2020東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ実施の締結を受け、ジャマイカの「ホストタウン」として登録を受けていたところです。

「ホストタウン」に加えて、この度平成30年5月29日に、大会参加国や地域のパラリンピアン等との交流をきっかけに、障がい者や高齢者が住みよい街づくりを推進する「共生社会ホストタウン」に登録が決まりました。

街全体が、子どもたち一人一人が、そして教職員一人一人が、共生社会の形成を担う一員として、ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーの取組を進めていきたいと考えます。

そのために、各学校で取り組んでいる特別支援教育や福祉教育の充実を図るとともに、お互いを知り認め合うことのできる仲間づくりを大切にしていきたいものです。

このような取組を通して、子どもたちが、共生社会の実現をめざす鳥取市というふるさとに誇りを持つことを期待しています。



教育と福祉の連携

支援を必要とする子どもやその保護者にとって、地域内で切れ目のない支援を受けることができるように、家庭と教育と福祉のより一層の連携を進めていくことが求められています。

鳥取市においても、教育と福祉の相談窓口の一元化を図り、「こども発達支援センター」を開設しましたが、本人の発達支援や保護者の子育て支援、幼稚園や学校等への教育支援を一緒に取り組んでいるところです。

また、一方で、放課後等デイサービスや障がい児通所支援事業所の設置が進んできたこともあり、学校への訪問や支援会議が増えているという現状もあります。

教育と福祉の連携は、学校生活や家庭生活において、子どもの安心が保護者の安心につながり、保護者の安心が子どもの安心につながります。

福祉サービスについてしっかり知るとともに、顔のつながった支援チームが広がっていくことを期待しています。

【鳥取市研修会より 参考情報】

「特別支援教育支援員研修」において、鳥取大学教員養成センターの石本雄真先生から、「今あらためて発達障害*とは？」という演題で講義をいただきました。 *鳥取県では「障がい」と表記

知っているようで奥の深い発達障がいの特性について、あらためて考えるとともに、「不安」に注目して支援のあり方について学びました。

発達障がいのある子どもは不安が高いことが示されているが、不安の高さは気づかれにくいだけではなく、怒りや悲しみも含め気持ちに寄り添う支援が大切！

なので

こんな支援の観点があります！

- ☆気持ちの言語化をし、指示やアドバイスの前に、まずは一言「気持ちへの共感的な言及をする」
- ☆リラックスの方法を一緒に考える
- ☆「何とかなるさ」「そんなこともあるさ」等の呪文を教える
- ☆不安や怒りが起きやすい場面を把握し、本人と共有する
- ☆多様な考え方を提示する

